

会 議 録

会 議 名	平成31年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課 (はけの森美術館)		
開 催 日 時	平成31年4月24日(水) 18時30分～19時40分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 上原佐世子委員 川崎京子委員 浜田真二委員 鈴木遵矢委員		
欠 席 委 員	山村仁志委員		
事 務 局 員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、岡本 同 はけの森美術館学芸員 中村		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 展覧会「すなわち喫茶すー中村研一の日常と「茶」の観覧</li> <li>2 事業実施報告等</li> <li>3 平成31年度の事業予定と予算について</li> <li>4 意見交換等</li> <li>5 その他</li> </ol>		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定</li> <li>2 平成31年度年間スケジュール</li> <li>3 開催したワークショップのアンケート</li> <li>4 平成31年度予算状況について</li> <li>5 茶室「花侵庵」資料</li> </ol>		

令和元年度 第1回小金井市立はげの森美術館運営協議会

平成31年4月24日（水）

【鉄矢会長】 本日はご多忙の中、お集まりいただき、まことにありがとうございます。ただいまより平成31年度第1回、平成最後の小金井市立はげの森美術館運営協議会です。

さて、次第1の展覧会の関連につきましては、皆様、既にごらんいただいたかと思しますので、次の議題に進ませていただきます。

まず、配付資料の確認をします。事務局のほうで配ったものの確認をお願いできますでしょうか。

【中村学芸員】 まず、次第です。資料1が、開催中の展覧会・ワークショップ等、ホチキスどめの3ページですね。資料2が展覧会関連企画の予定表。イベントのアンケートの取りまとめが資料3になります。

【事務局】 予算のほうは4になりまして、花侵庵の今後の活用方法の取りまとめのほうは5になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。31年度予算状況についてが資料4ということです。

【鉄矢会長】 次第2の事業実施報告等、(1)開催中の展覧会・ワークショップ等をお願いします。

【中村学芸員】 では、こちらは私から報告させていただきます。まず、資料1から順番に報告していきますので、順にごらんください。

既に皆様にごらんいただいたところですが、3月17日から所蔵展としまして、「すなはち喫茶す—中村研一の日常と『茶』」という展示を行っております。ちょっと頭のほうに、ほんとうは旧中村研一邸主屋が有形文化財に登録されたなどの長い文が付いているんですけども、すごく長いのでここでは省略しています。展示としては長い文のところ、省略してしまったところに書いてありますとおり、有形文化財に登録されたということをご記憶して、中村研一の暮らしの中でお茶がどんなふうにかかれていたか、そして、それが生活とどう結びついてきたかということを紹介する展示になっています。

なお、登録有形文化財のほうの登録は3月中に無事に行われて、公示がされたということで、登録決定記念となっていますけども、実際に登録されたというのが4月24日、本

日時点での状況です。

先ほど言いましたように3月17日から開催しております、年度をまたぐ形になっておりますので、3月中と4月に入ってからを分けてはいますが、3月中、旧年度のところまでで363人の入館者で、4月の昨日までの入館者としまして522人となっています。現状のところでは、合わせて前年度からで885人の入館者がいるということです。なお、ここに本日分が入っていませんが、本日はちょっと天気が悪くて8人しか入館者がいませんでした。

続きまして、この展覧会の関連企画について報告させていただきます。まず関連企画としましては、3月17日から開始ということで、16日土曜日にプレイベントとしましてギャラリーコンサートを開催いたしました。

今、そのギャラリーコンサートの様子をプロジェクターで映しておりますけれども、ハーピストである吉野直子さんにお越しいただきまして、ハープの独演のコンサートを行いました。展示室の中でハープを弾いてもらって、一足先に展示を楽しみながらハープの演奏を聞くことができるという、そういう盛りだくさんな内容にしておりまして、コンサートの後にギャラリートークという形で展示の解説もついている。そして、さらに希望された方には Musashino はけの森カフェでアフターティータイムサービスがつくというイベントになっておりました。

展示室の中に椅子を置いて、50名分の席をつくって演奏を聞いていただきましたが、最終的にこの50名のチケットは早々に完売し、非常に好評な結果になりました。

こんな感じで、見ていただいているように、展示室の奥のところにハープを置いていただいて、演奏しています。その後ギャラリートークもやりました。

このイベントに参加された方々の感想に関しては、資料3にアンケート結果がつけてありまして、見ていただくとすぐに分かりますが、「本イベントはいかがでしたか」という3番の設問に対して、「非常に満足」という方が36名、「満足」という方が4名ということで、比較的というか、かなり満足度が高い結果になっています。その後、本日の感想というところ、2ページのところについていますが、こちらの内容を見ても、来た方の満足度は非常に高かったということがうかがえます。

コンサートというのは、ギャラリーコンサートという形でこういう絵を飾って展示室の中でやるというのは、実は当館では初めてで、どうなるかなというところもありましたが、結果としては非常に満足度が高いということで、成功と言っていいのではないかなという

結果になりました。

あと、「美術の森」緑地トークツアー「研一さんのお宅訪問」というので、これは会期が始まってから、3月30日に美術の森緑地を散策するレクチャーツアーというのを実施いたしました。これは所蔵作品展のほうに出展されている絵にも描かれている中村研一邸が、先ほどありましたように文化財に登録されたということを記念して、その緑地を実際に歩いて、そして建物の様子を見てみようというイベントです。講師として東京理科大学教授の伊藤先生、また伊藤先生の研究室の学生さんにも来ていただきまして、そのほかに小金井市生涯学習課の学芸員である高木翼郎学芸員にも来ていただきました。

参加者と一緒にこのような感じでぐるぐる緑地の中を回って、この茶室の解説などをするというようなツアーを行いました。

こちらのイベントも、定員は15名ということで予定をしていましたが、最終的に申し込みが26名、かなりオーバーする形で希望者が来まして、このイベントに関しては最後にMusashinoはけの森カフェで飲食がついているというところがあった関係で、カフェのほうの収容人数のキャパシティを超えてしまったので、抽選を行いました。参加者としては、最後の当選者が2名で申し込んでいたので16名となりましたが、16名正規の参加者がいて、せっかく申し込んでもらったので、キャパシティの問題でMusashinoはけの森カフェでの飲食はできませんが、緑地のほうの散策には参加したいという人がいたら、これは参加ができますよという形で、抽選に外れた人にも案内をしました。そうしましたら、外れてしまった人のうちの5名はやっぱり参加はしたいということだったので、この人たちは緑地散策のほうには参加されて、21名の参加者という形になりました。

このアンケート結果についても、先ほどご覧いただいた資料3の5ページからのところについております。こちらと比較的満足度の高い結果になっていまして、当日天気がよくなくて寒かったのですが、それもあって、「ふつう」という人も1人いらっしゃいますが、ただ本日の感想というところを見ていただきますと、やはり応募してきた方たちはモチベーションが高く、いろいろ興味を持って緑地の中を見て回られたことがうかがえます。

あと、ギャラリートーク、これは会期中2回予定しておりますうちの1回目が、4月6日に行われました。今、映しているものだと2人しか参加者がいなくて、すごく寂しそうに見えますが、これはどうなるかなと思っていたら、その後6人参加者がおりまして、最終的には参加者8人となりましたが、ちょっと撮影のタイミング上、今映っているのは2人だけです。ただ、この2人の参加者の方に関しては、非常に熱心にギャラリートークに

参加していただきまして、実はこの参加者同士でものすごく盛り上がって、この後このお2人で一緒に展示を見ていかれていました。その後一緒におしゃべりをして楽しく過ごして、何かすごく2人の間でいろいろ盛り上がったようです。というのがギャラリートークですね。

これが今までやったイベント関係のほうの企画です。

このほかに、来館者感謝企画としまして、これは従来から既に何回かやっていることですけれども、はげの森美術館と附属喫茶棟である Musashino はげの森カフェの連携企画としまして、美術館のチケット半券をカフェに持参すると、展覧会にちなんだ期間限定特別スイーツが50円引きになるというのをやっています。今回の企画展に関しては、何か和風のパフェというのをつくっていただいています、そのパフェが50円引きになるということです。さらに、カフェ利用のレシートを美術館に持参してもらえると、こちらのほうではオリジナルのポストカードがもらえると。どちらかのサービスが利用できますよというのをやっています。

美術館側で確認できている数としては、カフェのレシートを持参してオリジナルポストカードを引きかえたという人に関しては、3月が1人、4月が4人という現状になっていて、合わせて5人ですね。カフェの側に関しては、今、確認中です。

続きまして、そのまま教育普及事業等で実施しているものについての報告をさせていただきます。これは概要のほかに、お手元に実際の実物をお配りしていますが、近隣美術館ネットワーク化事業、通称「ミュージアムリンク・ムサシノ」という名前をつけていますが、府中市美術館が主導で、隣接する市立美術館と何かやろうということで、今スタンプラリーを3館で実施しています。

お手元に緑色のパンフレットと、あと緑色のスタンプ台紙というのがあるかと思いますが、スタンプラリーの台紙を見ていただくとわかるように、3館回ってそれぞれの館でスタンプを押すと、そのスタンプを集めると、記念品だとか各館で使えるクーポンと引き換えられるよというイベントです。パンフレットのほうはちょっとした周辺マップにもなっていて、周辺の美術館とか、学校だとか、それから見て回るといいのではないかなというところが入っているというものになっています。これは結構気が長くやるイベントでして、3月16日、当館としてはこの所蔵展の開始日からやっています、来年の3月15日までという1年間で予定をしています。

それ以外にもう1つ、こちらは地図が表についているものが1つありますが、そちらも

スタンプラリーとして、これは「第14回森の地図スタンプラリー むさしの・桜と新緑をめぐる編」という別件のスタンプラリーです。これは西武・武蔵野パートナーズと、あと一般社団法人武蔵野コッツウォルズというところが主催をしているスタンプラリーで、もう14回目ですが、これに当館がスタンプのポイントとして参加しています。これは武蔵野と周辺地域をめぐるスタンプラリーということで、当館を含めた計21カ所のポイントの中から、どこでもいいから8カ所というふうな形でスタンプを集めるスタンプラリーです。スタンプを集めて、専用台紙を事務局に送付すると記念品がもらえるというのが主眼になっているスタンプラリーなのですが、このほか、当館の場合は、当館に来てスタンプを押して、受付で申し出てもらうと、当館のオリジナルグッズを進呈するというのもやっています。こちらも結構人気でして、最初にもらった200部のスタンプ台紙はもう全てはけまして、追加で150部もらいましたが、この150部の台紙も今、順調になくなっているというところです。こちらは実施期間が3月23日から5月12日まで、ゴールデンウィークが終わって、ここの展示、今やっている所蔵展の最終日までというような形で行われます。

以上が企画の概要になります。

そのまま、2番目の今後開催予定の展覧会・ワークショップ等のほうに移らせていただきます。そのまま下に見ていただくと書いてありますけれども、先ほども言いましたように、今の所蔵展が5月12日までということですので、もうちょっと続きます。

その間に2回目のギャラリートーク、5月5日を予定しています。

それから、展覧会の最終日、5月12日が、5月14日が中村研一の誕生日であるということのを記念した無料観覧日になっています。最終日に、せっかくですからたくさんの来館者があるといいなというところにもなっています。

また、教育普及事業のほうですけれども、鑑賞教室のスケジュールが最後のところに示してあります。今回の所蔵展の中で、5月7日の市立南小学校と、あと5月9日の市立小金井第四小学校が鑑賞教室に来る予定です。それ以降は、夏の展示ではなくて、秋のほうのところから鑑賞教室が本格化する見通しでして、10月から残りの学校が来館する予定です。

鑑賞教室とあわせまして、鑑賞教室の事前授業の希望があった場合は、これを実施しているところですが、今年も学校から希望をいただきまして、今、4校から希望が出ています。日程は調整しているところですが、最初に説明がありましたように、今、学芸

員が1人しかいなくて、4校で大丈夫なのかというところで、わりと私は恐れおののきな  
がら、今、ここの調整をどうしようかなと思っているところです。

以上が、今後開催予定の展覧会・ワークショップ等についてのご報告となります。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。ご意見等、また質問がありましたらお願いします。  
す。

教育普及事業のほうでちょっとお聞きしたいのですが、浜田委員に聞いたほうがいいの  
か、外国人の子供というのは随分小金井にもいるのでしょうか。母国語を日本語としてい  
ない子供で、美術はおもしろいけれど、学芸員の解説を聞いても、何か言葉が違うからど  
うもという方はいますか。

**【浜田委員】** 確かに、他市に比べたらそれほど多いとは言えないと思います。アメリ  
カ、中国、フィリピン、その他が何人かいますが、うちで日本語指導の先生をつけていま  
すので、日常会話ができる程度までは何とかして、学校の教室に入っているというふうに  
なっています。何とか聞けば分かると思います。

**【鉄矢会長】** 司会の立場を離れて発言します。学芸大の、うちの大学院生で中国人、  
中国から来た学生が鑑賞教室等に非常に興味を持って、中国なので、もしそういう子がい  
るとすると、ボランティアでもかかわらせていただけるとありがたいなと思っておりま  
すので、いませんじゃなくて、もしいたら、その子のそばに実際に中国語でどういうふう  
に伝えていいのかとか、英語だと多分、少し簡単な訳をつければつながるかもしれないで  
すけど、中国語の場合は全くわからない場合が出てくるので、そういう学生が今年大学院に  
入りましたので、ご連絡ください。

**【浜田委員】** 事前に、学校からそういう要望が聞けますよね。

**【事務局】** これまでのところ、そういう要望というのが学校側から上がってくるとい  
うことはありませんでした。どちらかというところ、特に介護なり、こちらで、例え  
ば階段が上がれないからエレベーターを使わせてほしいとか、その補助が必要であるとい  
うようなことに関しては申し出がありました。そういう、例えば言葉などコミュニケーション  
の問題で何かフォローが必要になるというような申し出というのが、今のところ上  
がってきたことはありませんでした。

実際のところ、事前教室授業なんかに行っていて、名前からしておそらく中国人の家庭  
の子供であろうというような子供がいたこともありましたが、コミュニケーションに、例  
えば支障があるかというところと全くなくて、ほかの子たちと一緒に普通にしゃべっていて、あ

の何とか君は中国から来たとほかの子たちが言ったりしていたので、そういった意味では、言葉のほうでフォローが必要な子が、今のところ、ここに出てきたケースがなかったものですから、そこに関しては、先生方にこちらから改めて聞くということはできるかとは思いますが、ただ、先生のほうで、少なくとも今の時点で、先生側から特にこうしてくださいという話が来ていないので、ちょっと聞いてみないとわからないですね。

【鉄矢会長】 それは、美術館が対応するとは予想もしていないのではないでしょうね。また、その学生はまた別件でご相談に伺うかもしれませんので、よろしくお願いします。

【事務局】 わかりました。

【鉄矢会長】 その他、ございますか。

それでは私からお話ししますがアンケートを見て、非常にいい評価でよかったなと思っているのと、アンケートのある資料3の6ページ目の真ん中あたり、「近くに住んでいますのに、はげの森や美術館、中村画伯について、よく理解しないまま過ごしておりました」という、これを何か解消したいですね。近所の、ほんとうに直近のポストだけはポストに入れるということをやってもいいような気がする。そんなにいっぱいやらなくていいです。限定10通入れようとか、なるべく負担にならない格好で何かやって、近所の人には理解してもらいたいという、何か手書きのメッセージをつけてやるだけでも、周りが理解されるといいような気がする感じのコメントだなという。

【中村学芸員】 おそらくなんですけども、このコメントをくださった方というのが、近くというふうに書いているのですが、お住まいがどうも小金井市ではなくて、三鷹市に当たるところに住んでいる方の方でして、だから、小金井市報が基本的には回らないので、市報でここの情報が、一番わりと目にされる方が、アンケート結果からしても多いですけども、ただ、三鷹市に住んでいるから、そういった情報というのが市報とかでは来ていなくて、今回はどうもチラシでこういうことをやっているというのを知って、初めて来たというような、そういうことのようなですね。

【鉄矢会長】 そうですか。わかりました。

【事務局】 あと今回、例えば音楽とか、例えば文化財だとかいう美術館と違うジャンルのものと組み合わせたときに、やはり音楽にしか興味がない、文化財にしか興味がないというのが、美術館でそれをやるから行ってみようと思たら、すごくいいところだったと意見がありました。やっぱり初めて来ましたというご意見の方が結構いらっしゃったので、違うジャンルとやるのも、違う視点で見てもらうのもいいかなと思います。

【鉄矢会長】 私もいいものだなと思います。

【事務局】 新しい客層の方が来ていただいて、ファンになっていただくということもいいなというのは、この取り組みをやってみて思ったところでございます。

【上原委員】 私もあります。こちらのほうの招待券を2枚いただきましたよね。私と同じぐらいの年の方と、ということは高齢者というか、そういう方に差し上げましたら、小金井市内の方なのにまだ1度も行ったことがないと。いつまでであるのということで、連休中にぜひ夫と一緒にいきたいと言われましたので、結構そういうこともあると思います。

【川崎委員】 私もいいですか。私も今回このチラシを幼稚園の掲示板に4月から張らせていただいて、あと、常設展の招待券を美術館からいただきましたが、それを配らずにとっておいたものを一緒に袋に入れてつり下げておいたら、数日で招待券がなくなって、やっぱり皆さん、住んではいるけど行ったことがなくて、でも、きっかけがあれば行ってみたいという方が多いのかなと、その反応ですごく思ったので、やっぱり1回目というのを、チャンスを、種をまいてあげるのがすごく大切だなと思いました。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。

【薩摩学芸顧問】 今のご発言というか、今ちょっと私もうっかりしていたと言おうか、忘れていたと言おうか、文化施設というのは意外に近くの人が利用しないんですよ。これは美術館だけではなくて、プールとか、意外にそういうところがあるので、もう少しやり方、広報の仕方をきめ細かくやる必要があるのかなという気はしますね。

実は、上野でも意外に台東区の人が来ないという。すぐ行けるという思いがあると、なかなか逆に行かないんですよ。だから、その辺は少し考えてもいいのかなという気がします。まだまだ小金井市民の方でここに1度も来られたことがないという方が相当数いらっしゃるだろうと思います。私も実はここを忘れていた視点なので、ありがとうございます。

【鉄矢会長】 では、3番目、次第3の平成31年度の事業予定と予算について。

【事務局】 それでは、事業予定については、今、中村からご説明しました、4月までの事業予定になっておりますし、予定としましては、秋にもう1回、年度をまたいで所蔵作品展を行う予定ではございます。途中で何がしかの教育普及事業を行っていただければなど思っておりますが、何度も言いますが、今、当初の体制がガタガタしておりますので、うまく運用していただければいいかなと思っております。

予算についてですが、見ていただいて、微増しているところと減になっているところが

ありますが、特徴についてお話しさせていただきますと、一番上の「はけの森美術館運営に要する経費」が微増になっているのは、今回、よく山村先生にもおっしゃっていただきましたが、美術館の単独のホームページを立ち上げる予算がつきましましたので、これからそれをウェブデザインの会社につくっていただいて、ある程度こちらの美術館のほうで情報を更新できるような形をつくっていきたいと思っております。その分、微増になっています。

その下の「維持管理に要する経費」ですが、ちょっと見たらご存じかと思いますが、実は美術館前の門扉が非常にガタガタで、大層な所蔵品を持っているわりに、針金でくくつてあるという悲しい現状だったのですが、やっとその門扉の交換修繕の予算がついたのと、あと、これは非常に受付の方たちからも注意されておりました傘立て、備品の傘立てが新しくなるという予算で、これも微増となっております。

事業のほうが減額になっているのが、昨年度、共同巡回展で助成金がついていたものが、今年は共同展がございませんので、その分が減っているような形になっています。

最後の「緑地の維持管理に要する経費」ですが、花侵庵の修復工事の予算がついておりますので、修復工事をやっていきたいと思っております。

以上が、予算と、予算に関する特徴となります。

今年は、実は助成金にいろいろ手は挙げましたが、予定の助成金が採択されなかったもので、広報が困るかなと。今もお話にありましたように、広報費がほとんどなくて、JRの駅張り広告の維持管理、今まで助成金で、新聞広告でやる、臨時広告でやるとか、雑誌に広告とかをやっていましたが、今年度に限りましては、ちょっとその辺の予算もないので、先ほどの広報などに載せたりですとか、いろいろ工夫をして、方法を考えていかななくてはいけないかなと思っております。

予算と予定については以上になります。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。何かご質問等ありましたらお願いします。

なければ4番目、意見交換等ということで、では次に、第4の意見交換についてですけども、旧中村研一邸茶室「花侵庵」国登録有形文化財に係る今後の活用方法について、取りまとめた資料を事務局から説明をお願いします。

**【事務局】** 前回の会議でいただいたご意見を、資料5のとおりに取りまとめをさせていただきました。これをさらに今日、何がしかこれにつけ加えるご意見がありましたらいただきたいと思いますというところと、あと、「美術の森緑地のこれから」という冊子を今、お手元に

配っているといいますが、実はここに書いてありますように、特定非営利活動法人アートフル・アクションがここの緑地の、はけと緑地、はけ一帯の植生について研究をしていました、はけの森の美術の森緑地の調査をしたんですが、冊子をつくるお金がないということで、冊子は市のほうでお金を出して、調査報告をこちらにもいただくという形で今、これをつくりましたが、これを見ていただくのと、この意見の中の、緑地の整理をしていかななくてはいけないんじゃないかとちょうどリンクしております、この7ページの後ろに資料が3枚ついていて、それのところに図3という大きな丸がいっぱいついている図がついていますが、これが上から見た木の茂った状態であるというところなんです、こんなにも茂ってしまって、下がほとんど見えないような状態になっているんですが、この辺のところ、この前にご意見いただいたところの、庭園の手入れに関してというところにまさにリンクしております、何がしかの計画をしてやはり手入れをしていかなければいけないのではないかと、今回のこの調査の中でデータというところに出てきています。

その他、利用料についてとか、利用方法についてのご意見をいただいているんですけども、何かこの中で特にここは強調して考えたほうがいいんじゃないかというようなご意見がありましたら、ぜひ聞かせていただきたいなと思っております。

この調査の報告書はかなり専門的なことが書いてありまして、調査をした方は、ここのNPO法人は4ページにございますように、調査員の資格がそこに書いてあるとおり、専門家に来てもらって調査したものであります。

最後のほうのページに、「画家と小金井の暮らし」というのは、ちょうど1年前の3月にここの建物の中で伊藤裕久先生と府中市美術館長の藪野健先生と建築家の新堀学さんによるトークイベントというのがあったときの作品が、こんな感じです。

もう1個、じゃあ今年、ここの多目的室で「大岡昇平と絵」というトークをやったんですけども、そちらのほうはこの冊子の中にはなじまないねということなので、別途、別冊でその内容についてはつくるというような形になっておりますので、この中身にはちょっと触れませんでした、そのようなところもやりまして、美術の森緑地とはけについての調査等のご報告をこの冊子に書いておりますが、かなり専門的な冊子ですので、必要でなかったら帰りに置いていただいてもいいし、そうでなければお持ち帰りいただければと思います。

そんな感じですので、それも含めて、前回以上に何かご意見があれば、お聞きしていき

たいと思っております。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

この「美術の森緑地のこれから」というのは行政資料室に入るんですか。

【事務局】 持っていきたいなと思っています。今はうちの美術館の資料として置いてあるというような感じで、そんなに冊数がつくれないんですが。

【鉄矢会長】 ここに書いてあるように、適切な剪定、庭に手入れが必要だと書いてあるんですけども、館長、予定は？

【鈴木委員（館長）】 先ほど予算の説明の中でもあったところなんですけど、維持管理でそっちの維持管理もするべきだと。緑地維持管理に要する経費については、予算、見た目は30年、31年で大きく増えているんですけど、花侵庵の修復の予算なんですね。

【鉄矢会長】 そうですね。

【事務局】 それ以外の予算についてはほぼほぼ同じ、変わっていないというような状況になっています。緑地の適正な維持管理というのは課題だなというのを再度思っているところですが、ちょっと手が回り切らないような実態もございます。

さまざま、いかにしてその維持管理にかかわる経費を捻出していくかというのはいろいろな方法があるかと思しますので、ここで具体的なことは申し上げられませんが、何か工夫して、もともとあった中村研一の庭として使っていたころの風景が、できれば復元できれば、新しい方法で進めていければなどは思っています。

【鉄矢会長】 特に6ページのように防災上の問題点が指摘されて、放置するというのは非常に、もう専門家から、技術士から問題点を指摘されてしまいましたので、それを放置しているという状況の中で次のまた台風が来てしまったりすると、うまくないだろうなと思います。

【事務局】 そうですね。強風の台風で結構倒木が、倒れて被害が若干あったところも、幸いにも近隣の、他棟への被害はなかったんですけども。

【鉄矢会長】 ええ。ここには書いてありますよね。また次に被害が起こるかもしれないというような。

【事務局】 はい。ここはちょっと、何かあったときに大変なことになってしまいます。

【鉄矢会長】 そうですね。

【事務局】 何かないようにしたいなと思っています。

【鉄矢会長】 30メートルを超えるケヤキなどの剪定作業を適切に行っている、簡単に書いてあるように、簡単には書いたつもりはないんでしょうけど、文字だと「する」というふうに書いてありますけど、やっぱりこれは作業としてはえらく大変で、トラックもあそこは入れないですよ。そんなことはないですか。

【事務局】 高所作業車が必要になるだろうし。

【事務局】 クレーンが、この間、そこが1本倒れたときに入り口のほうを壊して入りましたよね。ほうというか、垣根を少し壊して入りました。なので、奥になってしまったらどうなってしまうんだろうと。

【鉄矢会長】 意見でした。

【事務局】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 その他、何かございますでしょうか。

では、意見交換はよろしいですか。

【薩摩学芸顧問】 ちょっとよろしいですか。この前、出張で委員会に出られなかったので、今のこの報告書というところを読ませていただいて、いろんなことがあると思うんですけども、私もこうやって美術館で仕事をしていますけども、美術館のコレクションの中で一番保存が難しいものの1つが着物なんですね。

【鉄矢会長】 着物？

【薩摩学芸顧問】 つまり着物というのは着ていないとだめなんです。収蔵庫に入れておくと傷むのです。実は建物も同じで、使っていないとだめなんです。ですから、実は東京国立博物館の中にあちこちから移転してきたお茶室が4つか5つぐらいあるのですけれども、もう数十年前ですが、一生懸命保存していたのだけど、どうもうまくいかないというので、利用できるようにしたんです。そうすると、それに伴って保存のことも含めて進むということがあるので、やはりまず利用してもらえるように持っていくということが大事だと思います。

ですから、修復したら、まずきれいに整えてから利用してもらおうと思うのではなくて、利用してもらおう方向に持っていくと、利用してもらおう以上きれいにしなければならないという話になってくるので、そっちにやはり、それを主眼にしたほうが。だから今年修復したら、もう来年から利用できるように、もちろん最初はちょっといろいろトラブルがあると思いますけれども、そういうほうがいいかなと思うことと。それからもう1つは、国分

寺崖線、はけというのは歴史的にも非常に貴重な、日本全国的にいても貴重な部分で、ここで野川というのは古多摩川ですので、このあたりに縄文、要するに武蔵の国の中心というのはこの辺だったわけです。今の江戸城なんていうのは、太田道灌が江戸城をつくったころはまだ湿地帯だったんですね。ですから、この古多摩川の周辺、そして、縄文の人たちというのは水田をそんなにやっていませんから、この水を利用しながら高台に住んでいた。だから、この辺が律令国家時代に武蔵の国の中心になって、府中とか調布とか国分寺とか、こういうものがある。だから、歴史・文化的にも非常に重要なところですので、そういう意識を国分寺市あたりとも共有しながら、うまくこの保存をする方向を考えていければと思います。

これは長期的なことになると思いますけれども、もっとこの重要性を理解したほうがいいのではないかと私は小金井市にいて思っております。

以上です。

**【上原委員】** それは茶室のことですか。何を大事にすればいいということになりますがかかでしょう…。

**【薩摩学芸顧問】** この自然というか、具体的に言うと、はけの景観が残っているところ、もとの景観が残っているところというのはそんなにないわけで、ほとんど宅地化しているわけで、だからもとの景観が残っているところ、ここもそうですけれども、それはなるべく保存の方向で、きれいに保存するという方向で考えていかなければいけないのではないかなと私は思っています。

**【鉄矢会長】** 東京都も景観の構想の地区にしていますよね、一応。国分寺崖線の地区というのは。

**【薩摩学芸顧問】** そうです。国分寺崖線はそうしています。これが、最後が等々力溪谷のところになくなっていきます。

**【鉄矢会長】** とはいっても、小さな開発が起こるとすぐとられてしまうんですね。

**【薩摩学芸顧問】** そうなんですよ。

**【鉄矢会長】** 調布も、何かあれと思うと、いつの間にか山が切られているという。

**【薩摩学芸顧問】** ということです。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。そのほかにございますでしょうか。

**【川崎委員】** 前回、茶室の利用時にどういった運用がいいかという点で少し出ていたんですねけれども、あの茶室のスペースの中を、一般にお茶会として使っていただく場合に、

やっぱり持ってきたお道具を出して、その入っていた箱などを置く場所が多分あの中にはないんですよ、きっと。お茶を……。

【事務局】 小さい押し入れがあるんですよ。すごく小さい押し入れ。

【薩摩学芸顧問】 普通は、お茶会するときというのはその中で何とかするものですけどね。外に物のそういう箱を置く倉庫があるなんていうことは、普通はない。または、最近お茶会のやり方も昔とは変わっていますのでね。そういうのは考えたほうがいいかもしれないですね。

【川崎委員】 小金井公園でよくお茶会をやられている、文化連盟というのがあるそうなんですけど、もしかして具体的に利用できる方向とするのであれば、何かそういったふだんお茶会を小金井でやられている方に来ていただいて、見ていただいて、何が不足しているだとか、置く場所は館の2階を借りるとか、何か具体的に決められるといいのかなと。細かいですけども、思いました。

【鉄矢会長】 そのほか。

【浜田委員】 この間宿題になった部活動ということで、二中と緑中という情報は提供したところなんです。

【事務局】 はい。ありがとうございました。

【浜田委員】 ぜひ二中あたり、近いですし、中学生は結構いろいろやってくれますので、この辺、公園、草むしりさせてからお茶をやるとか、いろいろ使っていただければ、非常に愛着も湧くんじゃないかなと思いますので。どうぞご検討ください。

【事務局】 はい。中学校、早目に交渉したほうがいいですよ。

【浜田委員】 そうですね。今ちょうど立ち上がったところですし、年間の予定を立てるところだと思いますので。

今度何か、また二中に行くようなことを課長が言っていたので、それと一緒にいくというか……。

【事務局】 校長先生に美術館絡みの件でちょっとお願い事がございまして、お話、ちょっとつないできたあれなんですけども。近々に行こうと思っていますので、そこでちょっとそういう話もできればと思っています。

【事務局】 両方でお願いしたほうがいいですよ。出すというか。

【鉄矢会長】 一応ね。そうですね。

【川崎委員】 今のお話の延長で、草むしりとか、庭の掃除ぐらいでしたら、多分ボラ

ンティアを市民の方からも募って、もし参加、ボランティアをしてくださった方は観覧を無料でできるとか、そういったサービスをして、また来館するきっかけとかにつなげていけたらなと思いました。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。そのほか、ございますでしょうか。

じゃあ私から。そろそろクラウドファンディングとか、芸大さんがやっているのをうまく、民じゃなくて官がやっているという感覚でいうと、すごいものだなと。ただ、学芸員の仕事じゃないと思うので、違うところの誰がどうやるかわからないです。ただ、木を切る予算がないとか、いろんなことがありますよね。でも、「お茶室を使わせてあげるよ」と言って、ちゃんと寄附してもらおうとか、何かそういうことを通せるような格好にすることも実は、私も勉強不足だったんですけど、クラウドファンディングという広報ツールだというんですね。あれは広報ツールで、やっていて、民間のほうでやっている場合は広報ツールで、ずっとやって、来る人は頼んでおいて、最後に自分の自前の金をドンと入れて成立というふうにしているという作戦もあるそうなんですけどね。

だから、そういうふうな形を、小金井市がやるのは難しいでしょうけど、でも明らかに今みたいな草むしりも、1万円払って草むしり券、草むしりできるよ券を配るとか、いろんなことが出てくると思うので、検討することと、クラウドファンディングをおもしろがる何かパートナーがついてくれて、できるといいんですよ。

【薩摩学芸顧問】 はい。そういうところは、芸大は非常にうまいです。

【薩摩学芸顧問】 ええ。うちもクラウドファンディングをやっております。

【鉄矢会長】 では、次第の5番目、その他運営協議会提言についてになるんでしょうか。

【事務局】 はい。実は4年に1遍、この運営協議会の提言を出してございまして、今年はその年なんです。それで、今回この会ではそういう年ですということと、一応、今年運営協議会で提言をつくっていただかなくてはいけないので、運営協議会の謝金を1回分多くしてありますので、次回以降、協議していただければなと思っております。

【鉄矢会長】 あと、言い続けなきゃいけないこととか、そういうのをしっかり……。

【事務局】 はい。資料にしておきますので。

【鉄矢会長】 そうですよ。小金井市が予算がないから、ないからと言って、これを出すのはやめようじゃなくて、予算がないのとは関係なく、美術館としてはやっぱりこれを

しなきゃいけない、しなきゃいけないと言いつけるのが運営協議会の大事なところなので、皆さん、いろいろ思い出してください。

【事務局】 次回は前回の資料等々をつけて、ご意見を伺いたいと思っておりますので。

【鉄矢会長】 了解です。

【事務局】 前回の会議録の校正をしていただくべく、そこに冊子を置いてございますので、5月20日ぐらいまでに訂正がございましたらご連絡いただければと思います。よろしく願いいたします。

【鉄矢会長】 ご質問はありますか。これに関してはないですね。

では、次回の運営協議会の日程について。

【事務局】 じゃあ私のほうから。本日できれば日程をもう決めてしまいたかったところなんですが、山村先生が今日ご欠席になられていますので、大体7月末か8月上旬ぐらいをめどに、日程調整を各委員の皆さんに送らせていただきます。皆さん参加できる日を次回開催日として、またご連絡さしあげたいと思います。

【鉄矢会長】 いいですか。腹案ぐらい、事後とかなって大丈夫ですか。

【事務局】 候補を幾つか今いただければ。

【鉄矢会長】 じゃあ、8月2日、金曜日。

【薩摩学芸顧問】 そうですね。

【事務局】 その3日間で調整をさせていただきたいと思います。

【鉄矢会長】 それでうまくいけば。優先順位は今の順番でいいですね。

【事務局】 火曜、火曜、金曜ですね。

【鉄矢会長】 はい。そのとおり。ありがとうございます。その他、何かご意見はございますでしょうか。では、なければ、平成31年度第1回小金井市はけの森美術館運営協議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

— 了 —